

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：都市地理学 ILAS Seminar :Urban Geography			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 久木元 美琴		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	15(12)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	人間・環境学研究科棟437			使用言語	日本語
キーワード	都市 / 地理学						
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)							
【授業の概要・目的】							
<p>テーマ：地方都市を考える</p> <p>この授業では、都市地理学の基本的な視点や課題を理解し、都市を観察する方法を習得します。今回のテーマとして、地方都市を取り上げます。人口減少や東京一極集中の加速下における地方都市、地方都市の都市構造や住民の生活はどのように変化してきているのでしょうか。この授業では特定の地方都市を取り上げ、歴史的経緯や現状について学んでいきます。同時に、都市地理学の基礎的な視点や手法にも触れてもらいます。これを通じて、現代日本の地方都市をめぐる課題や可能性について考察できるようになることを目的とします。取り上げる都市は教員が候補を挙げ、初回授業で受講生と相談して決定します。</p>							
【到達目標】							
都市地理学の基本的な視点、都市空間や都市構造、都市の新たな動きや課題について理解し、文献や統計、現地の観察結果等について発表したりそれをもとに議論したりできるようになる。							
【授業計画と内容】							
<p>授業はゼミナール形式で進められます。都市地理学に関する文献資料の読み方、地図や統計、各種資料の判読・利用方法について学びます。各受講生は、文献資料のまとめ、地図、各種統計資料の判読を踏まえて、発表、討論を行います。また、具体的な都市の土地利用や現象理解のために、実際の都市を訪れて現地観察したり、資料館・博物館で地域資料を閲覧したりするフィールドワークを実施します。現時点では、フィールドワークの実施は5月後半から6月の土日(1泊2日)を予定しています。</p> <p>第1回 概要説明 第2回 文献学習、地図や統計の利用方法 第3～13回 受講生による発表と討論、現地観察 第14回 総括 第15回 フィードバック(フィードバック期間中に行う)</p>							
【履修要件】							
特になし							
ILASセミナー：都市地理学(2)へ続く							

ILASセミナー：都市地理学(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点100%。(授業への参加状況70% 期末レポート30%)

授業への参加状況は、授業内課題やディスカッションへの取組、プレゼンテーションの内容、フィールドワークへの取組によって測る。

[教科書]

未定

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：授業中に提示された資料や都市に関する文献や資料をまとめておく。課題への応答や発表準備、フィールドワークの準備をする。

復習：学習した現象や理論、討論内容を整理し、次回の発表や課題、フィールドワークに向けた準備をする。

[その他(オフィスアワー等)]

グループワークとフィールドワークを行うため安全かつ十分に指導できる規模に受入人数を制限します。

ゼミナール形式で行うことから、毎回出席できることを前提とします。自身の発表だけでなく、他の受講生の作業を見たり発表を聞いて討論することがゼミナールの重要な過程となるからです。

毎回の実習・演習のなかで文献資料の読解、地図や統計資料の分析など、主体的・能動的な取り組みが求められます。

課題を進めるにあたって、グループワークやディスカッション、フィールドワークへの参加が必要となります。

フィールドワークで、現地への旅費(交通・宿泊費で計4~5万円程度)及び関連施設入館料等(数百円~2,000円程度)は受講生の負担となります。

実習中の事故や怪我に備えて、学生教育研究災害傷害保険に各自で加入しておくこと。

生成AIの使用制限: 課題や評価に関わる成果物のいかなる部分も、生成AIによって生成、作成、製作してはなりません。提出が求められるすべての課題は学生自身が作成したものでなければならず、生成AIを使用して評価に使用される課題や成果物を作成することは厳格に禁止されています。ただし、自らの学習を補助するために、概念の探究を行うこと、説明を受けること、内容を翻訳すること、については、生成AIを使用することができます。使用する場合には、「京都大学の教育・学修におけるAIの利用について」のガイドラインを遵守し、誤情報やバイアス等のリスクが含まれることを念頭におき、根拠資料・一次情報の確認をすること。

[主要授業科目(学部・学科名)]